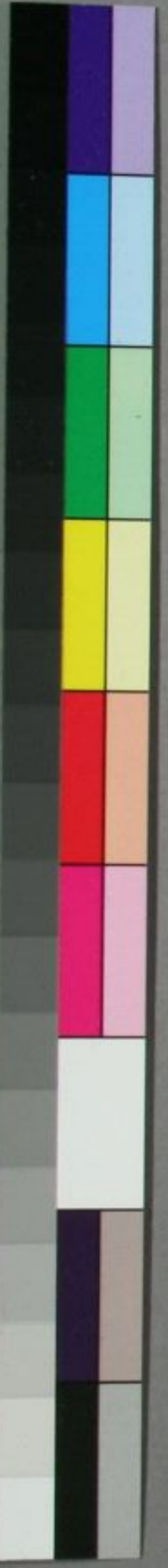


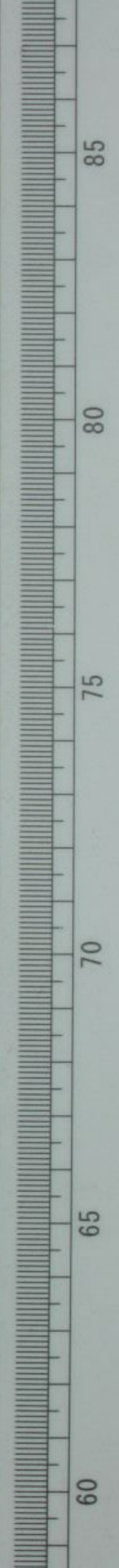
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



沖繩集二編

上

~ 4  
5296  
1







春あけの光をまはして  
 花の香をまはして  
 鳥の歌をまはして  
 水の音をまはして  
 風の音をまはして  
 雲の影をまはして  
 月の光をまはして  
 星の輝きをまはして  
 朝の光をまはして  
 夕の光をまはして  
 夜の光をまはして  
 朝の光をまはして  
 夕の光をまはして  
 夜の光をまはして

敦子

沖繩集二編

春

立春 あけの光をまはして 花の香をまはして 鳥の歌をまはして 水の音をまはして 風の音をまはして 雲の影をまはして 月の光をまはして 星の輝きをまはして 朝の光をまはして 夕の光をまはして 夜の光をまはして 朝の光をまはして 夕の光をまはして 夜の光をまはして 盛英

元旦 さけびの日の影のうらみ 我々の世に 花の香をまはして 鳥の歌をまはして 水の音をまはして 風の音をまはして 雲の影をまはして 月の光をまはして 星の輝きをまはして 朝の光をまはして 夕の光をまはして 夜の光をまはして 朝の光をまはして 夕の光をまはして 夜の光をまはして 朝保

元旦鶯 新玉のうらみ 我々の世に 花の香をまはして 鳥の歌をまはして 水の音をまはして 風の音をまはして 雲の影をまはして 月の光をまはして 星の輝きをまはして 朝の光をまはして 夕の光をまはして 夜の光をまはして 朝の光をまはして 夕の光をまはして 夜の光をまはして 朝範

若水 花の香をまはして 鳥の歌をまはして 水の音をまはして 風の音をまはして 雲の影をまはして 月の光をまはして 星の輝きをまはして 朝の光をまはして 夕の光をまはして 夜の光をまはして 朝の光をまはして 夕の光をまはして 夜の光をまはして 朝邦

朝宏

憲詮

盛奎

盛英

琉球の任よりありまはして





若菜知時  
 若菜知時  
 名所若菜  
 水郷若菜  
 野若菜  
 岡若菜

若菜知時  
 若菜知時  
 名所若菜  
 水郷若菜  
 野若菜  
 岡若菜

若菜知時  
 若菜知時  
 名所若菜  
 水郷若菜  
 野若菜  
 岡若菜

澤若菜  
 海邊若菜  
 残雪  
 餘寒風  
 霞添春光  
 名所霞  
 海上霞  
 海邊霞

澤若菜  
 海邊若菜  
 残雪  
 餘寒風  
 霞添春光  
 名所霞  
 海上霞  
 海邊霞

澤若菜  
 海邊若菜  
 残雪  
 餘寒風  
 霞添春光  
 名所霞  
 海上霞  
 海邊霞





柳間鶯

喜柳の糸もさけし縁草うかろひあつうまひその春 盛記

うまひの春もさけし縁草うかろひあつうまひその春 朝敷

うまひの柳もさけし縁草うかろひあつうまひその春 盛英

花あけぬ柳の糸もさけし縁草うかろひあつうまひその春 朝置

春風よなひく柳もさけし縁草うかろひあつうまひその春 朝常

柳間  
黄鳥路

喜柳の糸もさけし縁草うかろひあつうまひその春 政起

春情有鶯 喜柳の糸もさけし縁草うかろひあつうまひその春 李連

春情有鶯 喜柳の糸もさけし縁草うかろひあつうまひその春 朝宏

春情有鶯 喜柳の糸もさけし縁草うかろひあつうまひその春 朝重

梅始開 喜柳の糸もさけし縁草うかろひあつうまひその春 朝保

家梅始開

毎年愛梅 梅の花もさけし縁草うかろひあつうまひその春 盛元

窓梅

梅の花もさけし縁草うかろひあつうまひその春 安規

梅處

梅の花もさけし縁草うかろひあつうまひその春 李連

月前梅

梅の花もさけし縁草うかろひあつうまひその春 朝保

月前梅

梅の花もさけし縁草うかろひあつうまひその春 朝直

月前梅

梅の花もさけし縁草うかろひあつうまひその春 朝直

月前梅

梅の花もさけし縁草うかろひあつうまひその春 盛奎

月前梅

梅の花もさけし縁草うかろひあつうまひその春 盛英

月前梅

梅の花もさけし縁草うかろひあつうまひその春 朝敷

月前梅

梅の花もさけし縁草うかろひあつうまひその春 朝宏

名所梅 桂河なる梅 嘉うらなり 梅津の梅 やまうらなり 春 季連  
行路梅 玉むと此たり 人の様きく 白ふいふのさうなり 朝置  
社頭梅 由りきて 志りのかまて 白ふん 小野のまれ うちの下風 季連  
山家梅 世此人のかり たりとむきき 秋かたれ 梅のころ 花 盛振  
山家梅 春とらく 人より 心このまのころ 梅やい ありぬ 全道

朝 柳 桑うらぬ 秋ふら 柳花を ちりて 志る人 ちたり 朝置  
山家梅 心この梅れ ころ 白ふの 大ま人 ちりて 柳のころ 柳 宗経  
朝 柳 柳うらぬ 人より 志りの ちりて 志る人 ちたり 柳 有良  
朝 柳 只貴れ 秋ふら 柳のころ 柳のころ 柳のころ 柳 季連  
朝 柳 志る梅 子う 梅のころ 柳のころ 柳のころ 柳のころ 柳 朝置

春日 柳 柳うらぬ 志る梅 子う 梅のころ 柳のころ 柳のころ 柳 朝置  
山家梅 柳うらぬ 志る梅 子う 梅のころ 柳のころ 柳のころ 柳 朝置  
霞中柳 柳うらぬ 志る梅 子う 梅のころ 柳のころ 柳のころ 柳 朝置  
名所柳 大むの 志る梅 子う 梅のころ 柳のころ 柳のころ 柳 季連  
門 柳 秋門の小河 此車 志る梅 子う 梅のころ 柳のころ 柳のころ 柳 季連  
里 柳 柳うらぬ 志る梅 子う 梅のころ 柳のころ 柳のころ 柳 正益  
水邊柳 柳うらぬ 志る梅 子う 梅のころ 柳のころ 柳のころ 柳 朝置  
柳うらぬ 志る梅 子う 梅のころ 柳のころ 柳のころ 柳 朝置  
柳うらぬ 志る梅 子う 梅のころ 柳のころ 柳のころ 柳 朝置  
柳うらぬ 志る梅 子う 梅のころ 柳のころ 柳のころ 柳 朝置

多し而も来りしとて一喜柳と應れむとてまうんりる 大宜見 朝春

春風のつらき吹くもあなをうけし柳の糸もよるん 内向 朝直

青柳はくうりの一とてあじしり多し柳とてのさあつる危 昌快

春の木枯るもあなをうけし柳の糸もよるん 得禮 朝直

喜柳の糸もよるん池水は柳の糸もよるん 巨野湾 朝直

あられり水もよるん柳の糸もよるん 得禮 朝直

喜柳の糸もよるん柳の糸もよるん 得禮 朝直

田家柳 柳の糸もよるん柳の糸もよるん 得禮 朝直

青柳風静 青柳の糸もよるん柳の糸もよるん 得禮 朝直

山家若草 山家の糸もよるん柳の糸もよるん 得禮 朝直

大さのまはりのひとて柳の糸もよるん 得禮 朝直

とらとら花の白ひの糸もよるん柳の糸もよるん 得禮 朝直

大さの柳の糸もよるん柳の糸もよるん 得禮 朝直

さくらの白ひの糸もよるん柳の糸もよるん 得禮 朝直

大さの花の糸もよるん柳の糸もよるん 得禮 朝直

戒中の糸もよるん柳の糸もよるん 得禮 朝直

春月暁静 春月の糸もよるん柳の糸もよるん 得禮 朝直

名所春月 名所の糸もよるん柳の糸もよるん 得禮 朝直

山春月 山春月の糸もよるん柳の糸もよるん 得禮 朝直

柳の糸もよるん柳の糸もよるん 得禮 朝直

なつと池の白ひのうらたのひをむか梅うらたはるのうは母 唯延

池春月 池水は原まきとくわのむかひん 新とうらたぬ妻は秋の月 朝重

庭春月 秋やのたれ白ひや志とらん こととすらすまのうらたの月 政起

河春月 花のうらたはうらたはうらたはうらたはうらたはうらたはうらたは 盛英

浦春月 小春うらたの月ひのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 由怒

花間月 大春の月とむかひや志とらん 事あるはうらたのひのむかひ 政吏

帰 一 こととすらすまのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 朝保

あるとすらすまのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 昌快

るらとすらすまのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 朝宏

都帰 一 事とすらすまのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 盛升

事とすらすまのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 朝昌

暁帰 一 世とすらすまのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 盛奎

不のくしとすらすまのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 安規

朝帰 一 花はうらたはうらたはうらたはうらたはうらたはうらたは 安趙

夜帰 一 こととすらすまのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 朝範

霞中帰 一 立ゆらとすらすまのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 盛奎

海邊帰 一 日とすらすまのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 唯延

名所春雨 比叡のひの霧よきとて玄川の野をたれみり 一 妻とすらすまのむかひ 季連

曲水宴 こととすらすまのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 朝明

花 意とすらすまのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 朝置

咲いもすらすまのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 正善

いほとすらすまのむかひとすらすまのむかひとすらすまのむかひ 宗睦

嘆白の珠の朧とほろろけしきのふれきとちのひらり

阿波根 朝教

と船も程おろけ汁白く珠の朧と飛うさうりん

紀恭

ぞ記ちうとまされとまれ橋朧いららの人よははきさるる

朝宏

あつうはらりのいさげとありあまの朧のむもとけまの山風

朝保

いのまもまこまこまよほらねくまぬ花もうらら

盛升

あふらうふ河をいづよとまらもつらんとたを志せ

政模

まそと程さぬきうの菰の根の長さま日のんろろん

盛怒

ゆさきぬ朧よんわさねく白くぬらよきまきり

得禮

初花

初瀬山あきさうり白朧朧まはまありり

朝置

花水すききのふれきと酒との花を白ひそあ

朝保

まらりくしんとあよまも朧むも初らり

朝重

嘆とらうまれここの風うも珠の朧と折ふささ

内間 朝直

さうも朧初らうらむとほき一ねんさむ

大うの花よあけりんさむも初らうら

あまの鳴り日より初らうまも初ら初らあり

まらまのうらうらの花と山橋朧さうせく

さあうらうらあこれ初らうらむらうら

橋朧さうらむらうら葉人のこえぬまぬと

唯延

とあそけ朧ハそこもえん初らも先我神の白ひ

朝明

あまのうらうらうら初らうらうら

内間 朝直

あまのまらぬつうて日の葉ぬいほこの

盛綱

嘆初ら朧ハはくこあまれ

朝盛

尋花

尋花日暮



山松の春もれさく 暖かきつゆぐ けうらのまきむらり 季連

遠山花 きていのたれけさくもさるのまうたのうまみくさるが 朝宏

暮山花 粟田の松のちぐい 志のまうて 霧よりくさるのりろふ 盛奎

水邊花 白ひのさあまうれさくさくさくさくさくさくさくさくさく 季連

河上花 ふりせのさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 朝且

隣家花 花ゆきよとけりさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 季連

故郷花 春もれさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 孟官

あつらひのちりあつらひ

さうせいのちりあつらひさくさくさくさくさくさくさくさくさく 季連

水邊落花 大井のちりあつらひさくさくさくさくさくさくさくさくさく 孟官

雉子 子城のちりあつらひのちりあつらひさくさくさくさくさくさく 政吏

田 蛙 極ちのさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 朝保

池 蛙 いちのさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 季連

雨中蛙 雨のちりあつらひさくさくさくさくさくさくさくさくさく 朝重

野 蕨 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 朝直

簾外燕 玉のちりあつらひさくさくさくさくさくさくさくさくさく 朝副

他人のこのさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 朝副

志のちりあつらひさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 憲詮

玉のちりあつらひさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 朝教

玉のちりあつらひさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 朝教

玉のちりあつらひさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 朝置

玉のちりあつらひさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 朝置





暮 春

暮 春 暁

山家暮春

暮 春 鶯

暮 春 山 吹

阿 山 吹

水 邊 山 吹

春 林

山 家 暮 春

花よりよあられいづれかなのゆりもあそそくまふか 朝常

とちよもとちよのあまのゆりよとまふとちよとちよとちよと 政隆

山里れ言も求くくまふまれのゆき紙をてりてん 季連

とちよのとちよとちよとちよとちよとちよとちよとちよと 朝置

とちよとちよとちよとちよとちよとちよとちよとちよと 朝保

里人よとちよとちよとちよとちよとちよとちよとちよと 盛振

とちよとちよとちよとちよとちよとちよとちよとちよと

とちよとちよとちよとちよとちよとちよとちよとちよと

とちよとちよとちよとちよとちよとちよとちよとちよと

とちよとちよとちよとちよとちよとちよとちよとちよと

とちよとちよとちよとちよとちよとちよとちよとちよと

夏

首夏風

夏衣うしろ袖より風のうら涼くも中よりあつこ那 朝宜

夏衣あきぬよりて嬉き風もよこくあまろくをり 得禮

さのすて花ふりより山風とあつす夏衣をぬくもか 朝置

花も急いたまもよこく山風とたのむ夏衣もぬくもか 朝邦

うら涼あき涼くもよこく夏衣袖のうらより風や吹ん 全道

夏衣もぬくもよこく山風とあつす夏衣をぬくもか 賀快

花乃花れ中月ふくよこく山風とあつす夏衣をぬくもか 政房

さのすて花ふりより山風とあつす夏衣をぬくもか 朝保

首夏雨

我山此花... 朝教 大里

おれ... 朝直 伊江

首夏藤... 李連

夏山の... 朝重

更衣... 朝保

朝更衣... 安信

竹亭夏来... 朝宏

吹風... 朝保

尋残花... 李連

残花少... 朝常

樹... 正全

邦人... 朝置

新樹月... 盛英

新樹風... 朝保

卯花... 朝保

行路卯花... 李連

山卯花... 政隆

月前卯花... 朝宏

新竹... 正全

卯花... 朝重

井... 朝重

若井... 朝邦

初時鳥 つまらぬまらぬつらつらゆてひかなるそとけりし中とききすしこれ 内間 朝直

時鳥 月ふらうや老心のなほとききすあつた初春のさやうあつた哉 朝明

あまの心なほとききす世よらうと物あつたふ初春のさやう 賀快

ぬきまそそそ花の枝とくむるも情くもさくわらわら 政吏

待時鳥 我々の心なほとききすあつた初春のさやうあつた哉 憲詮

わらわらすまらぬのなほとききすあつた初春のさやう 内間 朝直

い夏の人情くあもわらわらすあつた初春のさやうあつた 朝保

一春よゆらぬのなほとききすあつた初春のさやうあつた 朝保

若流の花をたよりわらわらすあつた初春のさやうあつた 政輔

都時鳥 只我の中わらわらすあつた初春のさやうあつた 季連

月前時鳥 照月よらうや老心のなほとききすあつた初春のさやうあつた 朝直

遠時鳥 何き月の梅のつらなうらをさくも春うらさうあつた 季連

時鳥 遠のつらなうらをさくも春うらさうあつた 朝保

杜時鳥 あまの心なほとききすあつた初春のさやうあつた 朝直

関時鳥 久々のさやうあつた初春のさやうあつた 内間 朝直

わらわらすあつた初春のさやうあつた 盛英

我々の心なほとききすあつた初春のさやうあつた 朝尊

船中時鳥 ねむさうやうあつた初春のさやうあつた 季連

興文聞時鳥 妹さうやうあつた初春のさやうあつた 朝保

馬上時鳥 時きすあつた初春のさやうあつた 朝保

弱さうやうあつた初春のさやうあつた 季連

草枕梅子 花さけりて 賢福  
あやめく 愛海と 枕さく 盛元  
賊女の早苗 金武

滴 志つのおもむき 朝常  
きらむの白き 朝常  
あつしき 盛英

暁 橘 あぢめむし 朝保  
暁よ人や 政輔

瞿 麥 梅子うら 朝常  
世中におもむき 朝宏

閑庭瞿麥 梅子のむき 政輔

五月雨 きみれあゆみ 盛外

五月雨久 梅のむき 季連

旅五月雨 人やのむき 盛奎

五月雨晴 きみれの日 朝敕

水 鶏 あやめ 朝宏

旅宿水鶏 旅のむき 盛登

雨後夏月 きみれのむき 朝保

竹間夏月 みづのむき 季連

舟中夏月 深くも 朝保

舟中夏月 舟のむき 朝保

夕なるといふに死つてきく誓ひてん月此世毎もさうさう朝邦

すまは海舟ふよとれは風よりも月の影をも海にうつられ朝貫

月白急ううれてさ波の上の夏とそともこぼれぬ正全

雞皮はのりーらとまけく都にうらもさ年外のみ月賢福

夏 草

わささうまゆくち地はあつうかり夏此未野の志持とす死唯延

七種と香よはにうつらゆもあつ野にさるまうのれさるか盛全

旅宿夏草

志ありゆの好まきの反果分けに志すよ秋まら露もまら盛元

暁鶉河

うらひ鳥曉やまよと死いてせににはくらあつかり火の音朝常

池 虫

秋刀金とハ座あをわらうさうらと波の汗と飛ぶるこふ盛元

水邊螢

とふほつらふふとあひの涼なれはあ座まよのへ海るとん朝保

螢火透簾

戦やの志のすくしのむまよとあつまよふあつても飛雲こふ盛英

蚊遣火

夏れうは月もいせくともん蚊火のきつらと晴ふりしと朝保

隣蚊遣火

吹風のともりれきつらまよひこそ我り中りあをまうよさるか朝邦

池 蓮

うやり火とだぬまうりい戦やの隣は雨さうまよひとさり朝宏

海邊夕立

もらととあうらまらとれは流水の座あを露ハヤらとさか朝尊

旅夕立

ゆつふその杉と志川とせうたせな波に晴り夕まよ乃らあ唯延

氷 室

わさの東沖まてらうふま波のりまはけり夕まよのぬ朝宜

氷 室

恒吉の松とまあれ夕まよのかりとまあや流海流山盛奎

あつといふあ一日うら夕まよふあれはれまらけ臨海か由怒

志あおさうとまよとまよとまあま吉那のまよとまよとまあ朝保

まつら海松のまよとまよとまあひとまあやままてはらるああるとん

閨中扇  
松下泉

あつさよふあまをひてあまを山松のけりけり  
朝宏  
あつさよふあまをひてあまを山松のけりけり  
盛奎  
あつさよふあまをひてあまを山松のけりけり  
政隆  
あつさよふあまをひてあまを山松のけりけり  
盛登  
あつさよふあまをひてあまを山松のけりけり  
宗經  
あつさよふあまをひてあまを山松のけりけり  
政規  
あつさよふあまをひてあまを山松のけりけり  
朝直

十八

水邊納涼

舟中納涼  
水風涼  
水風如秋

河風よたぬあつさ秋はくをせむ心のまふすむころが  
李連  
あつさよふあまをひてあまを山松のけりけり  
盛英  
あつさよふあまをひてあまを山松のけりけり  
賀信  
あつさよふあまをひてあまを山松のけりけり  
朝明  
あつさよふあまをひてあまを山松のけりけり  
朝常  
あつさよふあまをひてあまを山松のけりけり  
盛奎  
あつさよふあまをひてあまを山松のけりけり  
朝保  
あつさよふあまをひてあまを山松のけりけり  
盛奎

晩涼如秋

竹風夜涼

晩夏

六月立秋

六月秋

夕風の吹く下りて神のうらた相のつとまをちりぬつとふ 朝重

ふのすくすく園生の異井はすくた風の絲くくろん 朝保

我中の糸のつじろ帯より起ましく吹風のすくさ 盛奎

夏と秋と今うやれたの雲のうらたて雲の春とさき 盛登

昨日よりい秋秋ととあそ月此来登のすた不にゆん 唯延

あそ月のうらたのすたをちりまのぬんぬん秋はきり 盛奎

みそさすか風の河風すく心かろおもわぬきり 朝宏

みそたて飛もあつて飛き河の昨日よりく清りりん 朝邦

秋

立秋

曉立秋

立秋風

立秋雨

初秋

むらもぬぬきり萩の糸は帯たても秋をきり 盛英

うらたあまきりくうらぬぬぬの糸はわく秋のく風 朝盛

曉のやまのまはきりく秋とものおの神の露よろか 盛振

あつたの糸はわく秋のきりぬ秋の初風 朝重

着ぬより秋やきぬんあつたの糸はわく秋の初風 安通

萩の糸はわく秋のきりぬ秋の初風 朝敷

糸のあまきりくあつたの初風のくろん秋のく風 朝置

糸のあまきりくあつたの初風のくろん秋のく風 盛登

糸のあまきりくあつたの初風のくろん秋のく風 朝保

萩の糸はわく秋のきりぬ秋の初風

足門のふりむのゆく二日月の影のうらなり秋のきぬらん 朝貫

初秋雨 秋きぬらん 一海はうらまえてやしくも神とぬらん 朝保

初秋月 きのふふとさう上はかく露の粒と見せよる月の影うね 朝常

新秋天 曇るあつたのさこれ二日月の下のゆく影は粒にんきあり 朝常

早秋虫 たまらこれあつたさうさうもさうらんとさうらんとさうらんの川旁 朝置

風告秋 むしきしうたあつたさうさうもさうらんとさうらんとさうらんの川旁 盛元

待七夕 ぬもあつたさうさうもさうらんとさうらんとさうらんの川旁 唯延

立 河風いさうさうさうとさうらんの妻むつたさうさうさうさう 朝重

立 柳楸のまわらあつたさうさう二日月の影むつたさうさうさうさう 盛奎

立 ちまもさうさうさうさうさうさうのさうさうさうさうさうさう 正善

柳楸のまわらあつたさうさう二日月の影むつたさうさうさうさう 盛英

天のさやあつたさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 正益

てのさやあつたさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 朝敷

たさうさうさうの羽衣あつたさうさうさうさうさうさうさう 盛登

久あつた天のいさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 季連

あつたさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 由怨

七叶のさうさうあつたさうさうさうさうさうさうさうさうさう 賀快

さうさうのさうさうあつたさうさうさうさうさうさうさうさう 盛元

たさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 朝置

早あつたさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 朝置

そあつたさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 唯延



菰聲驚夢

菰の聲は風をきくや我は露に落ちてさやむきひ初るん 朝宏

故御菰

故御の尾花の神の露のや吹みくもくん菰の上風 季連

月前菰

菰を眺むとあもあもは秋菰の錦は月あつたぬ危 政輔

水邊菰

水のうらさくをけりあふさやうの妻のなをそは秋菰のむ 季連

やうあけ野原のあまうつりらとさうりは秋菰のむ 朝置

ゆる弱く水くひとぬ人ともふ菰のむちり野原のむ川 盛奎

さびしうの秋もなをさうつさやうらあひらん菰の花妻 朝常

菰のむちりもあふぬあけけさまつりあまうつらうら 朝重

閑庭菰

閑る人もあまうつらうの菰のむさきさうらとぬれ 朝宏

行路薄

旅人のりうあせき花菰すはぬも露もまだいとく 盛英

ゆりくもさうらぬとれたのさびしむくもは秋神のむと 朝置

花をくはりうら人とまゆひくいつさあめさうらとぬれ 朝置

まじり来りうけりうらとまゆひ神のむとさうらとぬれ 朝置

故郷薄

故郷の志のこ小落りあつらうらまゆひもいとく人い 朝直

物ささのほもあまの志の志のすは秋風あつらうらひまつ 朝邦

草花露

草花露の秋風のうらさうらうら露とあまうらとぬれ 盛英

女郎花

あふさうの人はとらうらな女は花あふさうらあひの世は花 憲詮

人さの心はくくはの秋もさうらうらあひの女は花さうら 朝邦

秋風は思ひみくぬくもさうらうらあひの女は花さうら 朝明

人さと尾むら神のまのうせそさうらうらあひの女は花さうら 朝直

とらうら一花のさうらうらあひの女は花さうら 朝宏

涙水はあふさうらとさうらうらあひの女は花さうら 朝置

水邊  
女郎花



虫聲非一

朝宏  
 盛外  
 季連  
 朝互  
 盛全  
 朝邦  
 朝常  
 盛憲  
 良政  
 阿波根  
 朝教  
 政房

廿三

政起  
 知恒  
 有良  
 朝保  
 安信  
 政隆  
 柴隆  
 盛外  
 朝直  
 由怒

月

旅宿虫  
 里 鶉  
 小鷹狩  
 遠山霧  
 稲 妻  
 今



中よおしてあたまつ青のこの美れみそぬい月のみたぬころ 内間 朝直  
 こころに人あり月なるあすのふらつてうらまえるらん 盛奎  
 玉うちあられの秋のさす中とそみえぬ月三まあちかるとん 朝要  
 まやうら月とて丸まはつ青のあくるさす中とそぬえり 真裕  
 八月十六日秋あり寺まで

名所月

つと青あるれ海をく懐かしく月此みよの切かともや 盛弁  
 ぬれも彩といぬささあまき一見の浦れ秋のあす月 朝保  
 武蔵野の月のむくれ月あさく如とささの彩のそむらん 朝昭  
 吉れふたえん一もあは秋の秋れ月の白ひさありまくらえ 朝宏  
 うれ心もゆらもみらもまきさくら舞もきりも志らぬ月花よ 朝置  
 一ののひれ書よりうさえんあさくまきさむらぬ月の彩る 盛英

山月  
里月  
松上月  
松間月

ありだちてあまのこんと思あまを登るんある恒の江の月 唯延  
 わをれまつこもあし海さき月よますく恒れ江の月 盛元  
 うれ心さくく精せかあまみとらん月のうらあらん 朝邦  
 難波くこあまの秋音をねらり月うらあさくあま 政弼  
 みよつる月のかまのほろれちりきんある恒吉乃侯 真定  
 箱根の志くくわやとくひて明もはらる者ぬの月 正全  
 うさひつ妻あどくくゆら月をみまくら大原の里 朝常  
 恒くれ秋のうらまきこまにけりむくれきくの秋の秋れ月 朝邦  
 こころの彩るの松乃あまよりあつ月をんくうきれ 唯延  
 うれあつ月のちんよまうやの秋のあるもあつれけり 盛元  
 うらかりしきぬの秋のあまよりあつ月の志くくあつり 朝常



東風の初の日をいさよわして空海つそぬ秋はよの月 政輔

月入簾

武蔵野の草よりいそむれぬとては月を初 季連

山家月

是列のまふ木の音をわかれの春もあつこふ月更しなり 盛英

田家月

嵐吹枝のまらむと月も志流つらんゆり山のきき重 朝昌

惜月

鳴鳥のこゑのしらあもまらにけり田中はよの秋の秋は月 季連

樵夫帰月

月此つら心のあつこにやうとそふもこふありより 朝尊

(三十七)

花もまこ月よりいそひてゆらんあぢたのこゑ小舟の里人 賢貞

てり月よりいそひてゆらんあぢたのこゑ小舟の里人 安信

里人のうらひてゆらんあぢたのこゑ小舟の里人 由恕

思ふはまき地みらもまやあつ月よりいそひてゆらん里人 盛奎

まき地みらもまやあつ月よりいそひてゆらん里人 盛振

里人の妻あまきこし初紅糸志つらんかあつ月の影か 正全

おの里のわよまきあつ月よりいそひてゆらん里人 盛意

月の影もまほほよこし初紅糸志つらんかあつ月の影か 朝珂

里人のゆらんまほほよこし初紅糸志つらんかあつ月の影か 盛英

初らみらあつ妻あまきこし初紅糸志つらんかあつ月の影か 盛元

あつたあつあつ妻あまきこし初紅糸志つらんかあつ月の影か 朝宜

里人もはまほほよこし初紅糸志つらんかあつ月の影か 政吏

月影もまほほよこし初紅糸志つらんかあつ月の影か 賀快

家お離る初秋の月影のやうとそふもこふありより 季連

月前遠情

會友見月

九月十三夜

とり火の浦ののちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 大空の月れみよひのちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 月がねみちのちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 秋中の菊はまうけの白ひかりと青いと約し長月のちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 あまうしそ中の月といそまれの似たる朝保長月のちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 中々にほのそ中の月あうそ中のあまうし朝保  
 おんまうそ月の桂も紅葉してそ中のあまうし朝保  
 白菊のちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 めて初一年のちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 長月のちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 こころの菊の菊も長月のちやうてそとそ月の分るなり朝保

雁

待雁

白菊の露は白く長月なり初秋のちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 みらうそもみため何うそ秋のちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 あまうそ月のちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 めてそとそ月のちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 長月の今宵の月いそ中のすれのちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 めてそとそ月のちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 いはれそとそ月のちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 秋風の吹り白くまうそ月の分るなり朝保  
 おりけいそ中のちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 きのちやうてそとそ月の分るなり朝保  
 世とこころちやうてそとそ月の分るなり朝保



城のうらの夕日の影うらあひく重き居とまき元之形 朝置  
月のまむ尾上の松よちうけ此かう初をる居此形も 朝直  
いしきてうまをせくて居るの翅はかりこころあうらん 朝直  
居るの城のうらねとあつらんあうちうちうちせう  
山非のりみみのあきおひてまつ心とあぬねうらあひ 全道  
秋風のうらぬく久くうらうきういそつ居のおうまもあ 賢貞  
秋風のうらまむいされはたぐまらこころまれ衣かりう 宗睦  
まうれけう初穂うらあひまらそのを羽田のあうとをうら 盛奎  
秋風のうらまむいさうてみうちとたうてききん衣かりう 朝直  
久方のうらわのかり此玉葉も手よとらげう 嬌うらう 朝置  
は秋のうらうらん人の玉葉とらあうやきうつ 天はかりう 盛振

初 雁

廿九

月半の垣ひれす現かりうまゆくやうも居のまきまう 良郷  
秋風の吹初しうらねとれまうひまう居のまきまう 政起  
あうらうのまうれよまきまうねまのまの初居のま 由恕  
曉の初まあれまうまうまうまうまう初居のま 朝常  
秋風はうらうらうらあひまうまうまうまうまう 政朝  
我門の楹まは風の嬌まうま井の居とまきまう 朝宏  
あまは山田の系此寄のまままままままま 由恕  
まのまきまうまうまうまうまうまうまう 知恒  
初音れたあうまうまうまう初穂うらあひとまきまう 朝邦  
まうまうまうまうまうまうまうまうまう 宗経  
田上雁 小鳥の嬌あうらうまうまうまうまう 朝珂

曉 雁

雲間雁  
風前雁  
霧中雁

田上雁





きの年ややくわゆる世はむもつ自いそあつる志く菊のむ  
中に菊のいろくさくはまをいふ人も菊のさきま  
朝教阿波根

籬菊

菊花つりまうはまをいふもつりく世のむと見やめ  
物落し籬の菊のむのとけてくもち此ををみんら  
政隆

庭菊

は及れ庭のまうはまをいふもつりく世のむと見やめ  
まの千らもはまをいふもつりく世のむと見やめ  
朝明

菊の花老せぬやうまをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
朝常

ふ代はあまうはまをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
朝邦

くまをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
正益

くまをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
朝盛

水邊菊

白菊の花乃とてあまをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
朝邦

折菊贈人

ふ世まをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
正益

くまをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
由怒

くまをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
盛英

くまをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
朝直内向

くまをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
朝明

くまをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
正全

くまをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
宗経

くまをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
唯延

くまをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
朝常

くまをいふもつりく世のむと見やめ  
くまをいふもつりく世のむと見やめ  
宗相

今帰仁王子朝敷ののりよ

此花ありのふけりあひひつりく白く志く菊の花 季連  
百葉の花のともやうく花とよせの春と君や戸をん 園山  
沖惠此露とよまてき花君と世とさうけりん 盛奎  
百葉の花よをかく候いと世のふまうす花をれ 盛年  
ふ世ふ花よ一花のまえい候きくの花はるよんちり 朝春  
或人の庭前此菊紙

九月九日

山家秋

いろくはきくの花きくはせふふ代のあるまるにありあり朝尊  
仙人のまき此菊もくやといは文とちをれをんきり 安信  
くやといは菊のまうつよ波うけり代といふぬ宿あり危朝常  
山家いさくもくは世中と考此花は地のたらし居くつん朝保  
世中とよまをれきくは山家も花の心のおこしとあり 憲詮

紅葉浅

萩のまきよりぬ新瑞のふ花をまきりき花の夕暮 朝叔  
いま世の中さうさうりりくも我入りの花のおのひを 朝宏  
心属の春はうらるるふまといは世のふけりひさきり 朝置  
なまきくはまのりくもはぬ山家も花をあつぬ物さうり 政輔  
山家此花のふと人ともく朝とものみらる花のあり 園山  
なこくも海ぬとんまは小念の山家此花もも事幸約ん 宗相  
紅葉ふまきくは花のまう山家のめさくは花とまうん 朝置  
時をまうんもふた紅葉とらまといは世のおのひきりか 盛年  
旅人のまき此花の紅葉はうす花のわがまきせり 朝明  
まきくは花のまきくは花のまきくは花のまきくは 朝直  
くれまわりのらるるまめ紅葉とんあうもさうりきり

も雄山まことつらあき紅葉の初おまらして漆んをす 嗣職  
山根のまこと下漆ののみらるゑと漆のののとも心かき 李連  
深美山はまことつらの刃むらか漆のこころはあはれ 朝保  
つらふとつら木のありのみらるゑと漆のあはれ思ひあはれ 朝重  
うらむふか山の松はあはれよりまつくこころはあはれ 賢員  
おもふふか山松をまつくこころはあはれ 李連  
大井河をまつく松やたらぬんあはれをこゝろ紅葉よりまつ 喜重  
おもふふか山松はあはれも我門の小河のあはれまつくこころはあはれ 盛登  
ま田川ちとぬのみられうらふい松はあはれまつくこころはあはれ 朝明  
むらむら木ののみられをこゝろまつくこころはあはれまつくこころはあはれ 賢福  
うらむまこころまつくこころはあはれまつくこころはあはれまつくこころはあはれ 朝重

固紅葉  
水邊紅葉

松間紅葉

ささきも松のこころはあはれ大井河ちとぬのみらるゑと漆のののとも心かき 嗣職  
人びもまつく松をまつくこころはあはれまつくこころはあはれまつくこころはあはれ 朝保  
大井河をまつく松やたらぬんあはれをこゝろ紅葉よりまつ 喜重  
おもふふか山松はあはれも我門の小河のあはれまつくこころはあはれ 盛登  
ま田川ちとぬのみられうらふい松はあはれまつくこころはあはれ 朝明  
むらむら木ののみられをこゝろまつくこころはあはれまつくこころはあはれ 賢福  
うらむまこころまつくこころはあはれまつくこころはあはれまつくこころはあはれ 朝重

森紅葉  
伊紅葉  
萬紅葉  
高山寺  
若王寺

草花  
花亭



初冬嵐

初冬時雨

足安此山の木葉此ちの刀をいあぐりてとて冬をいそぐれ 盛年  
 神うたふり小まのこし獨よりちをさうしつりしれが 季連  
 冬をいそぐれ松のわたりや若つてし時をいそぐれ若者の浮き 朝宏  
 水その喜羽のこしをいそぐれ指く志らうと冬をいそぐれは 憲詮  
 冬をいそぐれしきのふれ秋まうらまゆく尾むく神よふ時をい 賀快  
 神昔月と知れさうれをいそぐれ若るやうみい若もさうけしん 朝昆  
 冬をいそぐれ若るはつひう初時雨とてしをいそぐれ若るはつひ 朝敕  
 神昔月と知れさうらうらふありて時をいそぐれ若るはつひ 正全  
 ちれれ山れあふこしをいそぐれ若るはつひう初時雨とてしをい 正善  
 若るはつひう初時雨とてしをいそぐれ若るはつひう初時雨とてし 政起  
 若るはつひう初時雨とてしをいそぐれ若るはつひう初時雨とてし 賀雅

初冬落葉

時雨

大その志くれしいまこしをいそぐれ若るはつひう初時雨とてし 朝宏  
 神昔月と知れさうらうらふありて時をいそぐれ若るはつひ 季連  
 指あつちうぬれ若るはつひう初時雨とてしをいそぐれ若るはつひ 朝宏  
 冬をいそぐれ若るはつひう初時雨とてしをいそぐれ若るはつひ 盛元  
 晴るが思ひやうそがれさうらうらふありて時をいそぐれ若るはつひ 知克  
 こしをいそぐれ若るはつひう初時雨とてしをいそぐれ若るはつひ 宗經  
 曉れ時雨のこしをいそぐれ若るはつひう初時雨とてしをいそぐれ 朝常  
 こしをいそぐれ若るはつひう初時雨とてしをいそぐれ若るはつひ 朝保  
 老人れしひてまらつるあつたにいまのこしをいそぐれ若るはつひ 賢福  
 いはれしをいそぐれ若るはつひう初時雨とてしをいそぐれ若るはつひ 盛英  
 名所時雨 いはれしをいそぐれ若るはつひう初時雨とてしをいそぐれ 盛振



山家時雨

きのうの雨をうらむるをまて人々のきりしれきのそと 朝要

関時雨

逢坂のきりやせまるともよそん職にてゆる夕暮れうら 由恕

海邊時雨

今もまて海のそととよそんや浦つてひいて時暮れうら 朝教

阿波根

松浦かた波崎はうらに暮れうらり唐土までもおちるうら 由恕

山瑞のひまふれをほくると海れみうらうら時暮れ 盛英

うらまきの磯をこころとてほくるともよそん此れをとり時暮れ 朝置

指とほくるともあふむむし時暮れ海のそととよそん 朝邦

海士のうら世にうらうらのむもあけ時暮れうらうら 政起

十月紅葉

小倉山更も紅葉うらやれうらん此れをほれ暮れ紅葉 季連

夕落葉

夕暮れうらうらあふむむしやまてむむらうらうらうら 季連

月前落葉

本葉うらうら此れ指のあふむむし月のむらうらうら 朝邦

風前落葉

本葉うらうらやまて本葉お波をこころとて風とやほくとおとあふむむし 朝保

うらうらうら本葉の波のうらうら本葉のうらうらうらうら 朝宏

紅葉のうらうらうらうらうらうらうらうらうら 朝意

うらうらうら本葉の波のうらうらうらうらうらうら 朝邦

山家落葉

うらうらうら本葉の波のうらうらうらうらうらうら 季連

落葉隨風

うらうらうら本葉の波のうらうらうらうらうらうら 唯延

水邊落葉

大井戸戸難波のうらうらうらうらうらうらうら 季連

うらうらうら本葉の波のうらうらうらうらうらうら 朝宜

紅葉れみうらうらうらうらうらうらうらうらうら 朝宜

うらうらうら本葉の波のうらうらうらうらうらうら 安信

橋落葉

紅葉うらうらうらうらうらうらうらうらうら 政吏

是實の秋心河の橋もくちの暮るのそけり宗相

あつたの橋の紅葉とくちの暮るのそけり朝置

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり唯延

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり盛英

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり朝邦

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり朝重

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり季連

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり朝宏

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり盛元

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり安信

池上残菊

木枯

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり風乃風朝邦

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり風盛英

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり風朝常

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり風紀恭

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり風安信

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり風朝教

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり風唯延

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり風朝直

あつたの暮るのそけりもくちの暮るのそけり風季連





山雪

白雪此のまら雪と照月のてらなほとちりひありうら

宜野湾 朝範

雪ふまはみくぬくもみぬむむとらひ白ふあり

阿波根 朝教

飛し雪うたうとみまふしひそめあふりてこそこれ

盛奎

雪ふまはみくぬくもみぬむむとらひ白ふあり

唯延

名所雪

雪ふまはみくぬくもみぬむむとらひ白ふあり

季連

行路雪

雪ふまはみくぬくもみぬむむとらひ白ふあり

盛登

連日雪

雪ふまはみくぬくもみぬむむとらひ白ふあり

季連

遠山雪

雪ふまはみくぬくもみぬむむとらひ白ふあり

賀快

水邊雪

雪ふまはみくぬくもみぬむむとらひ白ふあり

季連

大井

雪ふまはみくぬくもみぬむむとらひ白ふあり

朝明

雪のうらとみまふしひそめあふりてこそこれ

雪のうらとみまふしひそめあふりてこそこれ

雪のうらとみまふしひそめあふりてこそこれ

雪のうらとみまふしひそめあふりてこそこれ

雪のうらとみまふしひそめあふりてこそこれ

雪のうらとみまふしひそめあふりてこそこれ

雪のうらとみまふしひそめあふりてこそこれ

雪のうらとみまふしひそめあふりてこそこれ

雪のうらとみまふしひそめあふりてこそこれ

雪のうらとみまふしひそめあふりてこそこれ

海邊雪

雪はりの物もよきし鴨河のほろとこもつみ此も辰 由恕  
大井河いこころあまとは物もちううの雪の巻とかなるが 宗経  
もろこの物もそのほろぬる雪がよせううの雪の巻うぬる盛奎  
そとこのみつおと見えて松浦うこりあう一毎こつこの雪か  
伴焼のちまのあここののう雪まよと物う雪にうぬる危 朝重  
住者此むくせうこころあまの雪あつらうぬ  
うらうすの雪の巻のほろおまを積ぶううけのう雪う那 内間 朝直  
雪よのこつみうううんらまお再福うぬるあまの雪う那 おまき  
もろこの大海東うう雪のこまぬとちや沖は流る 盛英  
橋立の松の巻ううう雪ううてかろあもむうぶよまの海系 朝常  
浦風の吹上此頃のまま下うはけのうあううら物のお雪 朝置

閑居雪

雪の中會友  
山家雪  
埋火

あひまの雪の巻うううつこつ雪とほのこ志不の海 由恕  
住者のほれまゆもうつぬる雪の巻うあううまうう賢福  
ゆうまかてし志あまううかりうう雪うまゆ一雪のまらあ 盛登  
んかう人ういもあ雪うう雪う門とああうまうう物 盛元  
おのうううううううううううう雪のまらひううり 朝常  
あううう雪うううううううううううう雪のまらひううり 由恕  
非うもまう人あうてま雪はしうう住山のあまのまら雪 盛綱  
埋火とえもまあうねい雪年うも老の志うまうまのううり 朝副  
埋火れあうあううううまめうううううううううううう 朝恒  
ううううううううううううううううううううううう 朝直 内間  
かううううううううううううううううううううううう 朝邦









